

京都会館の建物価値継承に係る検討委員会の提言に対する基本設計の考え方（概要版）

標記の検討委員会から平成24年4月23日付けで提出された6項目の提言に対する基本設計の考え方を以下に示します。

1 基本的な考え方

（提言内容）

歴史的な建築の価値を保存しながら、一方で現状では不十分となった機能を加えるという改修となるため、保存と改変のバランスを考えることが必要であるとともに、歴史的な建物価値を損なうことがないよう取り組まなければならない。

（基本設計の考え方）

京都会館の建物価値は、特に、「平面・空間構成」、「ダイナミックでありながら静的な外観の佇まい」、それらを演出している「時代に左右されない素の素材」に、建物価値が見出される。

基本設計に当たっては、提言にあるとおり、保存と改変のバランスを考えながら、京都会館の歴史的建物価値の輝きを失わせることなく未来に継承するものとして設計した。

2 空間構成の継承

（提言内容）

ピロティによって中庭に導く「開かれた空間」の特質、中庭から第一ホールのホワイエを透過して冷泉通にまで見通せる空間の流動性を保つこと。

（基本設計の考え方）

「開かれた空間」や冷泉通まで見通せる空間の流動性については、ピロティから中庭に導く空間は既存を保存し、中庭から冷泉通に抜ける共通ロビーを設けることにより、現京都会館の持つ空間の流動性を踏襲した基本設計とした。

3 外観意匠の継承

（提言内容）

立面構成の価値、中庭に面した外観について維持継承すること。サッシ割りなど細部の形状については、可能な限り原型を保つこと など

（基本設計の考え方）

提言にあるとおり、大庇・手すり・バルコニーによって形成される立面が前川建築の最大の特徴と考えており、基本設計においても、既存部分については建具枠を再利用し、建て替える部分についても既存の大庇を復元するなど、京都会館の外観意匠を踏襲し、全体的統一性をもたらせることに配慮した。

4 景観構成要素としての意義の継承

(提言内容)

フライタワーの高さ・形状について、岡崎地域の風致を損なわないよう配慮を払うこと など

(基本設計の考え方)

フライタワーについては、機能上必要な規模を確保しながらも、南北方向の壁の幅をできる限り縮めて、ボリューム感を抑えるとともに、立面を縦方向に分割することで壁面全体の印象を和らげ、頂部は、京都会館の特徴である水平ラインを意識して水平に分節し、さらに、その部分の明度を上げることで、東山山麓の空へ融けていくデザインとし、岡崎地域の風致・景観に最大限の配慮を行った。

5 材料の継承

(提言内容)

既存の建築構成要素は、後補部分を除き保存・再利用する。再利用が困難な場合には、できる限り同一素材・同一形状で復元すること。

(基本設計の考え方)

建て替える第一ホールを除き、第二ホール、会議棟部分は、基本的に保存・再利用する。修復不可能なものや法的にやり替えが必要なものについては、できる限り同一素材・同一形状での復元を基本とした。また、第一ホールにおいても、できる限り建築構成要素を同一素材・同一形状を基本とした。

6 京都会館の建物価値を最大限継承するための対応

(提言内容)

京都会館の建物価値を最大限生かした再整備となるよう、再整備基本計画を幅広く解釈して柔軟に運用することが必要

(基本設計の考え方)

再整備基本計画の趣旨を踏まえながら、基本計画には直接触れていない空間についても、柔軟に解釈している。

会議棟については、既存の外観を残していくことを前提に、多目的スタジオを第一ホールの地階に設置することとし、共通ロビーについては、できるだけ透明感が出るよう工夫して、既存の中庭に面した外観と調和できるようにした。